

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100316		
法人名	特定非営利活動法人 しおさい		
事業所名	グループホームしおさいの家		
所在地	御前崎市池新田7449-1		
自己評価作成日	平成25年1月15日	評価結果市町村受理日	平成25年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JivgoVoCd=2276100316-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成25年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日本の文化として継承されている伝統行事(正月行事、節分、お月見、しめ縄作り、餅つきなど)を取り込んで、入所者の秘めている力を発揮する機会を作り自信を取り戻すことにより、生き生き暮らせるよう支援している。
地域の行事(文化祭、産業祭、案山子祭り、砂丘保全林祭り等)に参加したり、祭典には、大勢の子どもたちに来訪してもらい交流を深め、地域との関係を保持している。
夜間外出希望者には、蛍、、イルミネーション見物など楽しんでいる。
日常的には、生活リハビリにの取り組み、食事作り、片付け、洗濯、掃除、買い物などスタッフと一緒にを行い自立を促している。また器具を活用してのリハビリも継続的に実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自信を取り戻して普通の生活を」との理念のもと、開設から10年目を迎えています。毎日、新聞やインターネットから「今日は何の日?」情報を利用者に提供して、アセスメントに係る新たな発見がある一方で、職員が古きよき時代の縁や理を教えてもらえ、双方に有意義な時間を過ごしています。また、御前崎市社会福祉協議会との連携を通じて、使用済切手の端揃えにも取り組んでいます。社会参加の意義も伝え、職員と一緒におこなうなか、利用者の意欲も高まっています。このようななか、脳トレの逆言葉や暗記したり、日記をつけている利用者もでき、まさしく理念が日々培われていることを確認しました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は理念に沿ったサービスができるよう日々配慮してスタッフを統括している	1、2名の職員が1名の利用者を担当する形をとり、理念に基づいた目標を半年毎に立て、理事が目標達成や内省についての支援をしています。自立の支援を大きなテーマとしていて、ADLの向上が目標設定の変化からも覗えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣へ良く外出して話をかわしている。道路清掃にも参加して交流を図る中で、互いに理解を深めて頂いている	回覧板に「しおさいの家通信」も挟み込まれ、またモノのやりとりが日常的にあり、ごく普通の近所づきあいをもっています。また、特別支援学校や大学生の実習、三味線・オカリナ・書道のボランティア訪問も定例化し、広域交流も盛んです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトとして老人会、学校、子供クラブなどにも行って伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに運営推進会議を開催し報告している。また防災上の問題も提起し市より関係者を呼んで参加してもらっている。	隔月の開催が叶っています。本町23班の班長が毎年交代するシステムであり、また参加も得られているため、地域の理解者が年々増えていることが事業所にとって大いなる財産となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に報告するとともに市担当部署を訪問し指導を仰いでいる。	徒歩5分の市役所へは訪問しやすく、気軽に相談にのってもらえる関係が築けています。また、今年の運営推進会議には東海地震についての講話をもらえ、事業所の避難方法を替えるに至るほど有意義な内容を提供してもらえました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0(ゼロ)宣言実施。	毎週の水曜日ミーティングで権利擁護、身体拘束について触れ、意識の継続に取り組んでいます。リスクマネジメントの外部研修で得た情報を内部で共有化した書面には、細かな文字で職員意見が満たされていて、意欲の高さが覗えます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はない。 言語的暴力もないように留意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度に該当している利用者はいなくなったが、研修等に参加して知識を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明し納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表を委員にして意見を聴いている。 意見箱も設置している	家族アンケートでの意見であった「職員の顔と名前の一致」に速やかに取り組み、玄関にその日の職員の顔写真と名前を掲示しています。月次の支払いは直接家族に届けてもらい、「湯たんぽを用意して欲しい」など日常の要望を収束できています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常生活の中で言い易い職場づくりに配慮している。毎日ミーティング時の意見や日頃の職員の意見を出す時間を設けている	週1回のミーティングのほか、モニタリングや業務連絡も兼ねて午前と午後1回ずつ、管理者と職員が話をする時間をもっています。また、理事が職員の顔色や態度などの変化を見逃さず、声かけのうえ会話をもつよう心掛けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休業日は本人の希望に合わせてとっている。シフトについても希望に合わせて働きやすいと言う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉協議会や市包括支援センターの研修に参加したり、近隣の施設の方とも交流したり、研修に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会や研修会に参加し、相互理解による向上に努めている。メールも交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々に担当をつけて思いや希望を聞くよう努めている。家族からも聞くようにしている。また生活のこまごまからも思いや考え方を推察するようにしている。毎月1回全員に手紙を書いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症のゆえに本人が思いを十分に伝えられない事も良くあり、家族からは十分な情報が頂けよう聞くとともに心配や不安のないようにしている。入所当初の様子を家族に電話している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望を受け入れ、早期に対応し安心を感じて戴き、職員が情報を共有し、職員間で統一した対応ができるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に作ったり年中行事の由来を教わったりしながら、支えあっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には事細かに連絡を取り、本人を支えるのに協力して頂いている。誕生日や米寿の祝いなど家族の思いを寄せていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と墓参に出かけたり、親戚へ出かけたり出来る様に心掛けている。友人等も自由に来訪している	市役所や図書館まで徒歩で行ける利便性や四季豊かな自然環境を利用した花見散歩など、地域資源とともに生活を送っています。また、コンサート、食事など夜でも非番の職員と同伴で出掛ける利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しそうなときは仲介して孤立しないようにし、利用者同士が小さなことでも支えあえるよう支援している(ボタンをはめたり、靴下をはかせてくれたり車椅子を押してくれたりと等々)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了してからも来訪してくれたり、電話をくれる。当方からも時々電話をして本人の思い出話をしている家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に一人一人の思いや希望をくみ取り把握して共有している。(センター方式活用)	認知症という病気をもちながらも自己決定ができるよう言葉がけを職員間で考えるようにしています。「今日は何の日？」情報を利用者にテーマとして提供するなか、アセスメントに係る新たな発見があり、嗜好調査も頻回におこなっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ今まで生活が継続できるよう過去の経過をくみ取って把握するようにしている 担当を一人一人につけて他のスタッフにも協力してもらっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引き継ぎを十分行って一人一人について総合的な把握が出来るようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人の担当者が毎月モニタリングを行い計画作成担当者(ケアマネジャー)また本人家族等と相談し介護計画書(ケアプラン)を作成している	利用者担当が心身の様子や日々の実践をケア計画書(実施記録)に記録しており、プランの基本となっています。ケア計画書は利用者毎に介護内容と手順留意事項が記載され、できたかできないかが一目でわかり、実践が確実なことが覗えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別ケア記録やケアプランの実践記録を残し、他方で毎日2回の引き継ぎをし、なおケース引き継ぎ録を閲覧して共有し話し合いでケア計画を立案している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズが多様化しており、医療的な希望も増し、看護師の勤務を増やしたり看護師同伴の受診にも柔軟に対応している。利用者や家族の体調不良に伴う緊急を要する宿泊にも対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	障害者グループの配本サービスや市内へのイベントに参加し暮らしを楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意向に沿って医療を受けかかりつけ医とも連絡をとっている	協力医が高齢を理由に「従来のかかりつけ医に」と要望したため、本年入居の担当医には事業所の協力医に加わってもらいました。協力医への受診支援は職員がおこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師を採用し日常の健康管理をしている。また予防のため相談、対策を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の回復状況を見て早期の退院を促して実行している。また地域連携室等へも時々参上し情報を受けやすくしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアも実施している。体力レベルが低下した時点から本人の考えなど伝えながらターミナル計画を作成している。	開設以来12件の看取り実績があり、回を追うごとに協力医と職員の体制も整いつつあります。医療連携体制加算をとっており、オンコールで24時間対応の看護師のほかにもう一人看護師がいて、2名体制で安心の環境にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急訓練を年6回実施、初期対応に努めている。管理者は救急法競技会に参加し、救急対応の習得に努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難・救急訓練を独自に、また消防署に参加して頂き行っている。防災支援ネットワークに加入し、地域企業の協力体制ができています	周知なしの訓練を頻回におこない、地域の災害支援ネットにも加盟し、理事が静岡県ふじのくに防災士と、災害対策に手厚い状況にあります。津波想定における行政職員の講話から避難場所を本年替えるなど、常に再検討の姿勢に頭が下がります。	新規性のある取り組みがみられることから、大型家電製品や棚の扉などの固定についてもさらなる強化を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保はスタッフ全員が常時念頭に置き対応している	クスリの袋など名前がある紙類や、廃品回収も誰のモノかわからないようにして処理しています。トイレやお風呂など羞恥心に関わる事柄についての声掛けや対応については、理事から都度細かく指導があり、職員に浸透しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者に担当を付けて希望を聞いたり、自己決定ができるよう支援している。認知症故言葉で表現出来ないのも思いもくみ取るよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式で記載しながら1人1人を理解し対応するようにしている。 利用者によっては遅くまで起きていて朝食は遅く食べるなど、今までの自宅での習慣に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝はどんな洋服が着たいか聞きながら、清潔感のある服装を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から味見・配膳・片付け等無理なく参加している	地産地消の鮮やかな食材がワンプレートに盛り、多様な味わいが楽しめます。地域柄苺のもらいものも多く、ジャムづくりは恒例です。配膳や片付けが好きな利用者が多く、さらに参加しやすいように配膳台を本年あらたに設置しました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食生活推進協議会に所属し老人食などの実習をしたり知識を得ている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアやおやつ後の口すすぎなど実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員トイレで行っている。おむつから布パンツに変更し、9人中5人が布パンツである。	ケアチェック表には排泄状況が把握できるよう記録が隙間なく埋められています。「できるだけトイレでできるように」との方針のもと、排泄状況を踏まえたタイミングのよい誘導を努め、清潔な状態でいられるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しないよう毎日食事で繊維質の多い材料を吟味したり、沢山食べられる工夫をしている。排便表を付けて便秘していないか注意して見ている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回～3回希望で入浴している。	週5日湯をはっていて、2回は入浴してもらえるよう取り組んでいます。シャンプー剤などの消耗品も数種用意され、選択できるようになっています。入浴はチェアなど器具も備え、3人体制(中浴は1名)を基本として安全を担保した支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴や買い物などに出かけ安眠できるようにしている。また、就寝や起床の時間も自由にして、良く眠れる時間帯で睡眠を取っている。添寝やスキンシップで安心を感じていただいている人もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	概要を理解しているが、全員全薬を理解していない。その都度スタッフ間で教えあって理解を広げている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰もが無理なく役割を持って毎日遂行できるよう促し、遂行できた時は感謝の言葉をかけ、喜びを感じていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やイベント、散歩・コンサートなど希望を聞いて気楽に出かけている。図書館にも良く行っている。退職したスタッフが食事などに誘ってくれている。	年々ADLも下がっていますが、イーシーワーカーとバイスクルの購入で成果もでており、菜の花・水仙・コスモス・桜など季節の花を眺めることができる日々の散歩も半分程度利用者は続いています。イベント外出も年20回程度あり、家族や非番の職員と出掛ける利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同伴して支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも代行して掛けている。手紙は代筆している 日記をつけるよう、支援している人もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を生けている。食事は利用者と職員の協働作業で作っているので食事の香りや皿や茶碗の音も適度にあり、生活感や季節感有り	建物全体が白をモチーフにデザインされ、居室へ通ずる廊下には花などの油絵が多数あり、お洒落な雰囲気漂います。反面、機能維持を目的とした運動会や歌会などの名残が天井や壁に見られ、多様な取り組みが視えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室に自由に出入りしたり、気の合う利用者同士で各々に部屋を往来したり、思い思いに過ごせる工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、思い出深い物を飾ったりしている	エアコン、ベッド、クローゼット、カーテンが備え付けなためか、一見では同じような部屋に映ります。それでも、壁紙の色を替えてあったり、読書の本や姿見などで“その人らしさ”が垣間見えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	流し台や配膳台は低めにして食事の支度に参加し易くしている。物干し台も風が当たらなくて干しやすい位置にしたり高さを調整している		